

2 指導の重点

(1) 教育課程実施にかかわる指導の重点

○ 基本方針に基づいた重点

- ・一人一人が自分のやりたい遊びを、自分で見付け、幼児の発見や疑問から生まれる問いを大切に、十分に試行錯誤できるような持続可能な環境利用の推進を図り、短・中長期的な計画を作成し、整備する。
- ・友達との関わりを通して、互いの思いや考えの実現に向けて、工夫したり、協力したりして、言葉での伝え合いを重視し、失敗してもあきらめないで、最後まで協力してやり遂げる経験を指導計画の中に位置付け、積み重ねができるようにする。
- ・友達や多様な人々との関わりの中で、自分の思いを相手に分かるように言葉で伝えたり、相手の思いを感じ、受け入れたりする経験を通して、相手を思いやる心を育てる。
- ・小動物（ウサギ、カメ）や昆虫等の飼育活動、欠席調べ、栽培物の水やり、誕生会の準備や司会係など、園全体のために働く経験を積み重ね、自分が役に立つ喜びを感じられるようにする。
- ・友達と一緒に遊び、友達の考えに触れ、自分で判断したり、考え直したりして、新しい考えを生み出し、新たなものを創り出す喜びを味わい、自分で考えて行動できる力の基礎をはぐくむ。
- ・数量や図形、標識や文字等への関心や感覚が高まるように、幼児が自ら必要感を感じ、積極的に活用できる環境を創る。
- ・遊びの中で、思い切り体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるとともに、運動的な遊びも発達段階に応じて投げかけ、多様な遊びが経験できるように、保育室内だけでなく、園庭の環境を整備し、遊びの環境づくりを充実させ、保護者に発信する。
- ・遊びや生活の中でルールを守る必要性に気付けるようにし、幼児一人一人がきまりを作り守っていく経験を繰り返し、規範意識の芽生えを培うようにしていく。
- ・週1回の絵本の貸し出しや降園後に希望の親子に実施している図書コーナーの絵本の貸し出し、区立図書館との連携、教員や保護者及び地域ボランティアによる絵本の読み聞かせ等を継続的に実施し、絵本や物語に親しむ読書活動を積極的に推進していく。

○ 家庭や地域との連携・協働による教育の推進に係る指導の重点

- ・園内で気持ちのよい挨拶と返事を励行するとともに、園、保護者、地域が一体となって、気持ちのよい挨拶が通い合う環境を創る。
- ・園生活の様子を分かりやすくタイムリーに園内掲示等を活用して視覚化するとともに、園だよりやホームページ等により教育活動を広く発信し、保護者・地域の方々が本園の創意工夫ある教育活動への理解を深め、幼児の成長を温かく共有できるようにする。
- ・都民の日には、幼児が遠足等で利用する動物園などの入園料が無料になることから、併設小学校同様、休日とし、親子での利用促進のための情報提供を行うとともに、親子がふれあう取組や子どもたちの体験的な活動を促す取組を行う「東京都教育の日」「東京都教育の日推進期間」における園の教育活動では、都民の日における東京都の取組と関連させた取組を行う。
- ・未就園児の親子の居場所として、園庭や遊戯室等の遊び場を開放する。また、幼稚園児や職員

との交流を通して、子育ての見通しをもったり、仲間づくりをしたりするコミュニケーションの場として機能させるとともに、子育てについて気軽に相談ができる体制を整える。

○ カリキュラム・マネジメントの推進に係る指導の重点

- ・SDGs（持続可能な開発目標）の理念を踏まえ、「持続可能な社会の創り手」となる幼児自身が、「興味をもって取り組めること」「主体的に取り組めること」を重視し、従前から継続してきた以下の取組を推進する。
 - 【SDGs目標3 すべての人に健康と福祉を】障害者スポーツ『親子deボッチャ』
 - 【SDGs目標3 すべての人に健康と福祉を】手話体験
 - 【SDGs目標3 すべての人に健康と福祉を】新型コロナウイルス感染拡大防止の取組
 - 【SDGs目標12 つくる責任つかう責任】紙の再利用やゴミの分別
 - 【SDGs目標12 つくる責任つかう責任】日本の伝統文化に触れる機会
 - 【SDGs目標15 陸の豊かさを守ろう】季節に応じた花や野菜の栽培、小動物の世話
 - 【SDGs目標15 陸の豊かさを守ろう】園内の自然環境の活用
土の園庭の良さを生かし、伸び伸びと体を動かす遊び
四季折々に実のなる木や雑草園（ムシムシコーナー）等での虫取りの遊びや泥団子作り
 - 【SDGs目標4 質の高い教育をみんなに】子育て支援の充実
園庭開放、未就園児施設開放、預かり保育、
毎月の誕生会の後の子育てトーク（主任との雑談会）、保護者会での意見交換
- ・多様な分野で活躍している地域の方々の特技や能力を活用するとともに早稲田大学とも連携した体験活動を行うことで、幼児の興味・関心の幅を広げ、豊かな感性や情操、尊敬や感謝の気持ちをはぐくむ。（田植え、稲刈り、脱穀、おにぎり作り、獅子舞と和太鼓体験、等）

○学年ごとの重点

- 3歳児・教師との安心できる信頼関係を基に、学級の中で自分の好きな遊びを見つけて楽しみ、安定した園生活が過ごせるようにする。
- 4歳児・教師との安心できる信頼関係を基に、基本的な生活習慣を身に付けるとともに、教師や友達とのかかわりの中で自己を素直に表現できるようにする。
 - ・遊びを通して、友達とかわる楽しさや自己実現できる喜びを味わえるようにする。
- 5歳児・教師との安心できる信頼関係を基に、目的に向かって遊びや活動に取り組み、達成感を味わい、自信がもてるようにする。
 - ・協同して活動する体験を通して、友達と互いに認め励まし合い、遊びや生活を自分たちで進めていくことの喜びや充実感を味わえるようにする。

(2) 環境の構成

幼児が主体的に遊びや生活を創り出していけるように、安全で魅力ある教育環境を構成する。

○ 園内における環境構成の工夫

- ・園庭の全面が土であり、幼児用の固定遊具が複数ある環境を生かし、幼児が多様な動きを体験し、自ら遊びを展開できるようにする。また、幼児の安全性の確保を第一に考え、遊びの実態や特性を把握し、見直しを進めることで、豊かな経験につながるようにして、教育の質を向上

させる。

- ・全園児が安全に安心して過ごせるように、室内や遊具の配置等の環境の構成について、幼児の実態に応じて年間を通して配慮し、事故の未然防止に努める。
 - ・幼児の心身の発達を促し、主体的な遊びや活動が展開できるように、園内研究の成果を生かして、興味・関心に即した計画的な教材や教具・遊具の精選、提示、配置、環境構成の工夫に努める。
 - ・オープンスペースの利点を生かし、安全な動線を確認して、保育室から廊下までを利用して遊びの場作りを行えるようにし、異学年の自然なかかわりを大切にする。
 - ・自然への畏敬の念や生命を大切に作る心を育成するために、季節の野菜や花の栽培、園内で飼育している動物の世話や触れ合い等直接的な体験を積み重ねていけるよう環境を整える。
- 幼保連携や幼小連携の充実による環境構成の工夫
- ・園内や併設小学校、新宿区内等の感染状況に応じて、教育活動の実施方法を工夫し、実施時期や発達に応じた幼児の経験が積み重ねられるように配慮する。
 - ・併設小学校の校庭、体育館、屋上等を幼児の遊び場として活用し、広い空間を生かした遊びの充実を積極的に図るとともに、異学年交流を行い、幼児同士が関わり合える環境を創るようにする。
 - ・生活安全、交通安全、災害安全の3つを柱とした安全教育について、小学校の指導内容との円滑な接続を意識し、警察署による交通安全指導や、幼小合同による多様な想定による避難訓練（地震・火災・不審者等）を実施するなどの取組を推進する。また、幼児の安全・安心を守るために、毎月、環境点検日を設け、園内外の環境の見直しや整備、遊具等の点検を実施する。
 - ・近隣の早稲田南町保育園及び南町分園と、定期的な交流活動を行う。また、園庭で一緒に遊んだり、夏季プール開放時に当園のプールを利用してもらったりするなど、日常的な交流活動を行う。

(3) その他

- 幼小の連携・接続の充実
- ・園の教職員と早稲田小学校の教職員が連携し、幼稚園教育要領にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有することにより、就学前教育の質の向上を図る。
 - ・小学校が編成するスタートカリキュラムの実施状況を共有し、架け橋期の教育内容を充実させるため、併設する小学校の授業参観や小学校教員による保育参観等の機会を設定する。
 - ・早稲田小学校の低学年で実施する生活科の学習をいかし、幼児・児童双方にとって互恵的な交流活動を推進する。
- 特別支援教育の充実
- ・特別な配慮を必要とする幼児が集団の中で生活することを通して、生きる力の基礎を培う経験を積み重ねていくために、幼児の実態に応じた個別指導計画を作成し、支援員を含めた全教職員が共通認識の基に指導・援助に当たれるようにする。
 - ・保護者との対話を通して就学支援シートを作成するとともに、子ども総合センター発達支援コーナー「あいあい」や区の教育相談室、子ども家庭支援センター等の関係諸機関との連携を充実させる。

- ・特別支援教育コーディネーターを中心として、定期的実施される専門家チームの巡回相談や併設小学校のスクールカウンセラーとの連携の機会を生かした組織的な支援体制を構築する。
- 外国籍幼児等への支援の充実
 - ・多様性を尊重し、それぞれの文化を尊重するとともに、幼児の教育的なニーズに応じて、日本語サポートや通訳派遣等を活用し、日本での生活や文化に慣れていない幼児が、安心して園生活を送れるようにする。
 - ・外国籍の幼児の保護者からの協力のもと、幼児が異文化を体験できる場を設定し、異文化・多言語への理解を深められるようにする。
- 子育て支援の充実
 - ・保護者の教育的なニーズに応えるため、降園後の園庭開放、キッズデーを充実させる。その際、地域施設を活用し、早稲田大学生との交流活動としての農業体験や、地域ボランティアによる運動遊び等を取り入れ、多様な人との関わりを通して、早稲田幼稚園ならではの魅力ある豊かな体験活動を行う。
 - ・月1回、降園時の時間などを活用し、保護者が幼児と触れ合い一緒に遊ぶ「親子ふれあいタイム」を実施し、幼児とかかわる楽しさ、幼児の成長を実感できるようにする。また、同年代の子どもの様子にも触れることで、我が子の発達や育ちをより深く理解できる機会になるようにする。

3 創意工夫ある教育活動

- 教師の資質・能力の向上と魅力ある教育活動の創造のために、「自分の思いを出し、主体的に遊びを楽しむ子ども〜ごっこ遊びを通して〜」という研究主題を設定し、園内研究会を充実させ、分析的、計画的に、イメージを広げ、友達と思いを伝え合い、遊びを楽しめるような環境構成や指導を重ね、日常の教育活動に生かしていく。
- 牛込第二中学校の中学生による3日間の職場体験の機会を生かし、中学校の校庭へ中学生とともに散歩したり、どんぐり拾いをしたりする等して、多様かつ継続的なかかわりを持ち、中学校や中学生を身近に感じられるようにする。
- 教育活動に対する保護者アンケートや教職員による自己評価を踏まえ、学校評価を実施し、教育課程の改善・充実を図る。